

『第二期長崎県特別支援教育推進基本計画』（素案）に対する パブリックコメントの募集結果について

『第二期長崎県特別支援教育推進基本計画』（素案）について、パブリックコメントを実施しましたところ、貴重なご意見をいただき厚く御礼申し上げます。

いただいたご意見に対する県の考え方をまとめましたので、公表します。

- 1 募集期間 令和3年6月18日金曜日から7月19日月曜日まで
- 2 募集方法 県庁ホームページ入力フォーム、ファクシミリ、郵送
- 3 閲覧方法 県庁ホームページ、長崎県教育庁特別支援教育課、
県政情報コーナー（県庁県民センター内）
各振興局行政資料コーナー（長崎振興局を除く）
- 4 意見件数 25件（14個人）
- 5 意見への対応区分の内容

対応区分	対応内容	件数
A	素案に修正を加え、案に反映させるもの	0
B	素案に既に盛り込まれているもの、 素案の考え方に合致し、今後の具体的な施策の中で取り組んでいくもの	11
C	今後の施策を進める際の参考等とするもの	7
D	反映が困難なもの	1
E	その他	6
	合計	25

6 総括

「特別支援学校の環境整備」「特別支援教育に携わる教職員の専門性の向上」「関係機関や外部専門家と学校との連携」など、第二期基本計画の方向性と合致するご意見を複数いただきました。それぞれのご意見については、今後、具体的な施策を進めていくための参考とさせていただきます。

7 提出された意見の要旨及び県の考え方

<全体を通して>

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
01	E	第一期長崎県特別支援教育推進基本計画の策定および、基本計画に則った各施策等により、長崎県の特別支援教育が一般的な教育として深く浸透することになったことは間違いありません。この度の第二期の計画が策定されたことで、これまでの取り組みが更に推進されることに期待しています。県内の特別支援学校の適正配置等、更に進めていただきたいと思ひます。第二期計画は第一期計画との比較等、とても分かりやすい構成だったと思ひます。	今後、第二期基本計画に基づき、具体的な施策を示した実施計画を策定し、特別支援教育の更なる充実に取り組んでまいります。

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
02	E	特に気になる部分はありませんでした。異議ありません。	今後、第二期基本計画に基づき、具体的な施策を示した実施計画を策定し、特別支援教育の更なる充実に取り組んでまいります。

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
03	E	よく分かりました。	今後、第二期基本計画に基づき、具体的な施策を示した実施計画を策定し、特別支援教育の更なる充実に取り組んでまいります。

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
04	E	やまゆり園事件のようなことが起きず、みんなが共生できればと思ひます。	今後、第二期基本計画に基づき、具体的な施策を示した実施計画を策定し、共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進を図ってまいります。

本県の特別支援教育推進における基本方針 本文5ページ

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
05	B	中学校勤務です。本年度国立特別支援教育総合研究所の専門研修に行く機会をいただきました。他の都道府県のような取り組みを知ることができ、本県も、様々な機関が協力して特別支援教育の推進をしなければならぬと改めて感じました。基本方針の中に、「乳幼児期から学校卒業後までの一貫した指導や支援」とあります。乳幼児期の検診や福祉機関、学校関係者など、組織的に専門的な研修が必要だと思ひます。特別支援教育の知見は、学び続けていかないと、表面的な知識だけでは反対に偏りが出たり、医療モデルは日々進歩したりしていて、大切なことを見落とすことが多いと思ひます。学校では特別支援担当者以外の多くの職員は、専門的な研修を受けておらず、見落としがちな発達障害の子どもたちに一貫した指導や支援を図るのが難しいと思ひます。校内の職員研修だけでは、共通理解を図れていない部分もあるように感じます。	素案12ページに示しているとおり、校内での研修に加え、管理職員を含めた全ての教職員の発達障害等に関する研修会を実施し、学校経営方針に特別支援教育の視点を取り入れて児童生徒一人一人に応じた指導や支援を推進してまいります。今後、第二期基本計画に基づき、具体的な施策を示した実施計画を策定し、全ての教職員の専門性向上に取り組んでまいります。

本県における特別支援教育の現状と課題、施策の方向性

1 特別支援学校の環境整備と教育の充実

(1) 特別支援学校の環境整備 本文6ページ

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
06	E	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化による児童生徒数が減少する中、特別支援の児童数が1.5倍、1.3倍の増加 *なぜ特別支援児童数が増加しているのか？原因の究明/検討/考察が欲しい。 ・本特別支援教育推進計画はこれまで見た数多の推進計画案でベストです。(部外者でも一目で理解できる、簡潔にまとめられた内容、色分け、【現状と課題】【施策の方向性】【資料】どれも素晴らしい。) 	特別支援学校に在籍する児童生徒数の増加は、様々な要因が考えられますが、素案6ページに示しているとおり、特別支援教育に関する理解や認識が高まったことが大きな要因であると考えています。

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
07	B	皆様におかれましては、長崎県特別支援教育の充実・発展に力を尽くされておられますことに敬服いたします。さて、私からの意見として、「学習環境の充実」をあげさせていただきます。学校によっては教室や学習スペースが不足しているところがあるようで、特に分校などでは苦慮されているように感じています。限られた環境の中での工夫も大事ですが、安全安心で効果的な教育活動を進めていくために、何卒ご検討のほどお願い申し上げます。	素案6ページに示しているとおり、地域や学校によっては、小・中学部に在籍する知的障害のある児童生徒数が増加していることや新たに定められる特別支援学校の設置基準に対応するため、更なる教育環境の整備が必要と考えております。今後、第二期基本計画に基づき、具体的な施策を示した実施計画を策定し、全県的な視点に立って児童生徒数の見込等を考慮し、教育環境の整備に取り組んでまいります。

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
08	B	子どもの数が減少する中、地域や学校によっては小・中学部に在籍する知的障害のある児童生徒数が増加していることに、高等部としては計画的に教育環境を整備する必要があると感じます。	素案6ページに示しているとおり、地域や学校によっては、小・中学部に在籍する知的障害のある児童生徒数が増加していることや新たに定められる特別支援学校の設置基準に対応するため、更なる教育環境の整備が必要と考えております。今後、第二期基本計画に基づき、具体的な施策を示した実施計画を策定し、全県的な視点に立って児童生徒数の見込等を考慮し、教育環境の整備に取り組んでまいります。

(2) 特別支援学校における教育の充実

卒業後の自立と社会参加に向けたキャリア教育や職業教育の充実 本文9ページ

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
09	B	高等部卒業後の就職率は上昇している一方で就労した生徒の中には、短期間で辞めてしまうケースがあり、その要因を分析し、学校におけるキャリア教育や進路指導の重要性を改めて感じる。	素案9ページに示しているとおり、就労後、定着できている要因や離職に至った要因を労働局等の関係機関と連携して分析し、その結果をキャリア教育や進路指導に生かしていく必要があると考えております。今後、第二期基本計画に基づき、具体的な施策を示した実施計画を策定し、キャリア教育や進路指導の更なる充実に取り組んでまいります。

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
10	C	最近のデジタル化IoT技術、ドローン技術など最新の技術進歩に係る教育などが必要ではないか。自	素案9ページに示しているとおり、ICT活用のスキルを身に付けることは、個々の特性や能

		立を目指した教育のあり方として、社会で自立して生きられるように、特徴ある一芸に秀でるような教育実践が必要ではないか。繰り返しインターン教育など実践教育を高等技能訓練施設とタッグを組んだ教育にしては、特別支援学校に専門課程の追設はどうか。	力を生かした就労の可能性を高め、進路選択の幅を広げるために必要と考えております。今後の施策を進める際の参考とさせていただきます。
--	--	--	--

2 幼稚園等、小学校、中学校、高等学校における特別支援教育の充実

(1) 幼稚園等における特別支援教育の充実 本文11ページ

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
11	B	早期発見・早期療育のための手立てをより充実させることが、最も効果的だと感じますが、現状一番注目されているのは、問題が顕在化する小中学校です。もっと幼稚園、保育園での見取りシステムを拡充し保護者への啓発も含めて、早い段階での対応に力を入れていただきたい。二次障害が出てしまっただけでは何倍もの労力がかかります。	素案11ページに示しているとおり、幼稚園等における特別支援教育の充実のため、職員等が障害のある幼児一人一人の特性を理解するとともに、支援内容や方法の工夫に組織的かつ計画的に取り組むことが必要であると考えております。今後、第二期基本計画に基づき、具体的な施策を示した実施計画を策定し、幼稚園等における特別支援教育の充実に取り組んでまいります。

(2) 小学校、中学校、高等学校における特別支援教育の充実

特別支援教育の視点を生かした教育環境づくりや授業づくりの充実 本文12ページ

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
12	B	「小・中・高等学校におけるユニバーサルデザインに基づいた教育環境づくりや授業づくり、障害のある児童生徒一人一人に応じた指導や支援の充実に向け、市町教育委員会と連携して取り組みます。」に就労に向けた文言を入れると方向性がより明確になると思います。 ・案1 (略) 授業づくり、各種検定や資格取得の奨励、障害のある(略) ・案2 (略) 授業づくり、将来の就労に向けた知識や技術の習得等、障害のある(略)	ご指摘いただいた各種検定や資格取得、就労に向けた知識や技術の習得等は、素案12ページに示している授業づくりや一人一人に応じた指導に含めて表現しております。

特別支援学級や通級による指導における障害特性に応じた指導や支援の充実 本文12ページ

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
13	B	特別支援学級や通級における指導、個別の教育支援計画の作成と活用について、PDCAの視点でこれまでの取組の反省と評価をしてみる必要があるのではないかと。	素案3ページに示しているとおり、特別支援学級や通級における指導、個別の教育支援計画の作成と活用については「障害のある子どもの教育の在り方に関する検討委員会」においてこれまでの成果と課題を検証し、素案12、13ページに示している今後の方向性を整理しております。

個別の教育支援計画の作成と活用による切れ目ない支援体制の構築 本文13ページ

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
14	C	日本全体の労働力の向上については、高校における特別支援教育が重要である。発達障害や低学力のために授業についていけない生徒の割合はかなり高いことが予想され、ただ座っているだけの無駄な時間を過ごしている様子が想像される。そして、卒業後	素案3ページに示しているとおり、第一期基本計画に基づき、高等学校における特別支援教育体制の充実に取り組んでまいりました。今後も素案12ページに示しているとおり、生徒一人一人に応じた指導や支援の充実に向けてまい

		に専門学校に進学する生徒が多い。そこで、職業訓練校や実業高校などの養成校を増やし、ICT含む専門技術を身に付けると同時に、中学卒業程度の言語力と計算力の確実な取得を目指すようになることを希望している。	ります。
--	--	--	------

校内の人材を活用した効果的な支援体制の充実 本文13ページ

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
15	B	「管理職員がリーダーシップを発揮し」とあるが、管理職員に特別支援の知識・技能・経験が不足していることが多いように感じられます。管理職員が研修を深めたり、経験を共有して打開策を話し合ったりする場を増やしていく必要があると思います。	素案12ページに示しているとおり、管理職員を含めた全ての教職員の発達障害等に関する研修を充実し、学校経営方針に特別支援教育の視点を取り入れることを推進してまいります。

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
16	E	校内の人材を生かすとは、どのような人を活用するのか。	素案13ページに示しているとおり、各校の特別支援教育コーディネーター、県内11市町に配置されている指導教諭、特別支援学級の担任、通級による指導の担当者等のことを想定しています。このような人材を活用しながら、全ての教職員の特別支援教育に関する理解を深め、効果的な支援体制づくりを推進してまいります。

学校外の専門家と連携した支援の充実 本文14ページ

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
17	C	学校外の専門家には、地域活動や伝統芸能の指導についてのシニアの活用、IoT専門家を入れたデジタル教育も含めて考えるとよいのではないか。(夏休み電気学会員や学生による実験技術指導、長崎県技術士会員や企業OBなどによるボランティア指導)	素案14ページに示しているとおり、小学校等においても医師や理学療法士、発達障害者支援センター等の医療や福祉の専門家との連携が必要であると考えております。今後の施策を進める際の参考とさせていただきます。

3 特別支援教育に携わる教職員の専門性の向上

(2) 人的配置の工夫による専門性の向上 本文16ページ

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
18	C	そもそも、必要とされる専門性を身につけている人材の絶対数が少なすぎます。何らかの対策を講じ、人材の育成を急がなければ、現場が破綻しかねない危機感を感じます。 ・大学の教員養成課程の段階での研修や初任者研修の拡充 ・OJTを可能にするために各地域にスーパーバイザーを置く(現状では現場でエビデンスに基づく判断や検証ができないので発展性がない) ・市教委に専門家を配置し学校職員の相談窓口を作る	素案15、16ページに示しているとおり、小学校等においても特別支援学校教諭免許状の取得を促進するなどして計画的な人材育成を図るとともに、研修交流等を進めることによって特別支援学級担任や通級による指導の担当者に特別支援教育の専門性の高い教員の配置を推進することとしています。今後の施策を進める際の参考とさせていただきます。

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
19	C	特別支援学校への希望が増えているのは、地域の通常学校では満足しない保護者が増えているためであると考える。今後、通常学校での特別支援教育を増	素案16ページに示しているとおり、小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実のために研修交流をさらに促進することや、小・中

		強する必要がある。そこで、特別支援学校の教員の一部を、市町教育委員会に出向させ、発達障害のある子供や低学力の子供への指導力を向上させるために、幼小中学校を月に数回程度定期的に訪問・視察・相談・助言を行うようにする。学校を改善するためには、権威と力が必要なので、所属を市町教委にし、特別支援教育推進指導官などの役職を創設することも有効である。60歳を超える再任用の教師の中から実践力のある人を登用することも一つの方法である。そのために、特別支援学校内での教育を効率化し、少数の教師での授業を推進し、出向教師を捻出する。同時に、受入れ学校の意識を醸成し、相談しやすく協働しやすい状況を作っていく。	学校の指導教諭の更なる活用を進めることとしております。また、素案10ページに示しているとおり、特別支援学校と小学校等との連携を強化し、地域のセンター的機能をさらに充実させることとしています。今後の施策を進める際の参考とさせていただきます。
--	--	--	---

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
20	B	人的配置の工夫による専門性の向上について、研修交流に依るところを掲げられていました。研修交流については、本人の意思表示に頼るものと思います。離島部では、交流先も限られ、島外に異動するのは制約がある方もいると思うので、計画的に専門的な研修を計画するなどして、多くの職員を早急に育成する必要を感じます。「担当者の配置について、専門性の高い教員の配置」とありますが、通級による指導についても、特別支援学級の担当についても、中学校では教科のバランスや、人事の関係により、割り当てのような配置であり、とても専門性を鑑みての配置とは言えない現状があると思います。教室立ち上げの時点でうまく行っていない場合、その後の運営に影響している面が少なからずあります。長崎県は離島が多く、専門機関が限られていますので、学校が地域の中で大きな役割を担います。そのような大きな責任を支えるだけの配置の工夫が必要です。指導教諭については、現段階でその役割や指導内容など、把握できていません。広く周知していただくと良いかと思えます。	研修交流については、素案16ページに示しているとおり、小学校等と特別支援学校の双方にとって大きなメリットがあり、第二期基本計画に基づき、具体的な施策を示した実施計画を策定し、研修交流をさらに促進してまいります。特別支援学級担任や通級による指導の担当者に専門性の高い教員を配置することについては、素案16ページに示しているとおり、地域や学校の特別支援教育の推進に大きな影響を与えます。今後、第二期基本計画に基づき、具体的な施策を示した実施計画を策定し、計画的な人材育成を推進してまいります。指導教諭の周知につきましては、素案13ページに示しているとおり、市町や校内の特別支援教育推進の核となることから、その役割や活用事例の周知に取り組んでまいります。

4 関連する諸課題への対応

(1) ICT活用等による特別支援教育の質の向上 本文18ページ

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
21	C	特別支援教育の対象となる児童生徒に対し、どのようなIT技術が必要なのかを希望職種の調査を踏まえて判断する必要があるのではないかと。また、外国語のグローバル教育やPC取扱教育など、外国人による教育が必要ではないかと。応用面でどのように使うか、その効果の評価など、一芸に秀でたデザインやCAD設計手法など、会話型インプットやオンライン会話などテレワーク対応の練習など、いずれかに特化した免許資格取得につなげるとよいのではないかと。	素案9ページに示しているとおり、障害のある児童生徒の個々の特性や能力を生かした多様な働き方を視野に入れて、ICTスキルの習得や向上を含めた職業教育を充実させてまいります。今後の施策を進める際の参考とさせていただきます。

(2) 学校外の人材や関係機関等との効果的な連携及び地域におけるネットワークづくり

医師、理学療法士、作業療法士及び言語聴覚士等の外部専門家の活用 本文18ページ

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
22	C	各学会技術士会、NPO法人、シルバー人材センター、各種学校や大学などと特別支援学校がソフト開発、機器貸与、専用機器準備などで連携が必要ではないか。	素案18ページに示しているとおり、学校外の専門家や関係機関と連携を図っていくことは重要であると考えております。今後の施策を進める際の参考とさせていただきます。

保護者等支援の推進及び教育と福祉等との連携 本文19ページ

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
23	B	障害のある子どもたちの教育に携わっておられる皆様に感謝いたします。障害者の豊かな生活、幸せな生活を願う者の一人として、意見させていただきます。高等部卒業生の就労率の伸びに見られるように、多くの卒業生が社会の中で活躍されていることを嬉しく思います。障害者が様々な人とつながり、豊かな生活を実現していくためには、在学中の職業教育に加えて、放課後等デイサービスなどの関係機関とも情報共有を深めることも大切だと考えます。特別支援学校を中心として、障害者が自分らしく活躍できる取組を推進していただきたいと思います。	素案19ページに示しているとおり、放課後等デイサービス事業所などの関係機関と情報共有をしていくことが重要であると考えております。今後、第二期基本計画に基づき、具体的な施策を示した実施計画を策定し、情報共有に取り組んでまいります。

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
24	D	本市は、放課後等デイサービスに通う生徒は少ないです。幼少時通っていても、中学生で途切れてしまいます。また、病院以外の敷居の低い相談先が少ないです。佐世保市では、発達センターに授業の合間に通っている生徒もあり、担任がDr.から直接連絡いただくこともできました。カウンセリングや、訓練も気軽に受けられる発達センターのようなものが地域にあることは、離島こそ必要ではないかとも思います。	いただいたご意見につきましては、担当部局と情報共有をさせていただきます。

教育と労働との連携 本文20ページ

NO	対応区分	意見の要旨	意見に対する考え方
25	B	SDGsも盛り込まれると同時に、コロナ禍という世情も反映してのICTの活用など、多様な生徒を多様な視点と取組で教育していくという方針が理解できました。弊社でも3年ほど前に特別支援学校の卒業生を採用し、採用に当たっては担当の先生が弊社に出向き、その生徒の障害や固有の性格等について勉強会を開催してくださるなど、非常に熱心な取組に感心いたしました。感謝しております。このように学校教育の課程が終了すれば、何らかのカタチで社会の一員になっていくかと思えます。本基本計画の中でも「障害のある子どもたちが社会の一員として」とあるように、どこかのカテゴリーで、もしくは連続した教育課程の中で、地域企業との交流がもっと増えていくと良いように感じます。正直なところ、特別支援学校に通学する子どもたちのコトをよく理解していない、もっと言うと、特別支援学校そ	素案20ページに示しているとおり、障害のある生徒の就労先となる業種の拡大を図るため、企業に対して特性等を生かした障害者雇用について理解を促すことが重要と考えております。今後、第二期基本計画に基づき、具体的な施策を示した実施計画を策定し、学校と企業との連携強化に取り組んでまいります。

	<p>のものをよく理解していないというのが、少なくとも私の現状です。可能であれば、子どもたちが地域に出てくるだけでなく、私たち企業側の者が学校に出向き、必要な研修や教育を受け、障害等について理解を深めるといった取組やカリキュラムを創設していただければぜひ参加したいと思います。そうすると、SDGsの4だけでなく、3、8、10、11などにも波及してくるのではないのでしょうか。</p>	
--	---	--